

福田寺だより

発行

飯田山 福田寺

住職 橋本尚信

神奈川県小田原市飯田岡二五七
電話 0465(36)2755

庫裡の屋根が吹っ飛んだ

今年は自然災害が猛威を振るった一年でした。各地の被害を耳にする度に、被災地の人は大変だなあ。義捐金を募る必要があるのかなあ、と自分が被害に遭うことなど相模湾トラフの地震以外は、思ってもみませんでした。しかし九月末の暴風雨は福田寺にとって自然災害の猛威を見せつけてくれました。庫裡の南側のトタン屋根を全て吹き剥がしたので

す。
夜中一時過ぎゴォーと吹き荒れる風を気にしていると、ベリッ嫌な音がしました。飛び起きてどうにもしようが無く様子を伺う間もなく、

バリバリと屋根が剥がされていく音がします。すると天上からポタポタと雨が落ちてきたのです。バケツを並べ始めたのですが、間に合わず天上全体からザーザーと流れ落ちてきました。家族で部屋の荷物を運び出しましたが、濡れてしまい使い物にならなくなった衣なども出てしまいました。風は朝方まで収まりませんでした。

翌日屋根を見ると庫裡母屋の南側のトタン屋根がすっかり剥がされてしまいました。トタンの大方は敷地内に落ちていましたが、一部が北側の田畑を通り越して住宅のフェンスに当

たっていました。人的被害がなくて安堵しました。

直ぐに大工さんに来てもらいブルーシートで覆いましたが、雨漏りを防ぎきれず、短期間で残りの荷物を運び出さなければなりません。部屋の中はホコリと湿気の嫌な臭いが充満して、防塵服での作業が続きました。

この建物は昭和三十四年頃先代住職が建てたもので六十年近く経っており、衣部屋や寺務所としても使用していたので、今回の被害が起きる前から再建する必要があったのですが、延び延びになっていました。二次災害が起きる前に早めに取り壊したいと思います。

檀信徒の皆様にはしばらくの間ご心配をおかけ致しますが、法事その他参拝等に関しましては全く問題ありませんので何なりとお申し出ください。



東寺

空海と仏像曼荼羅

来る二〇二三年は、お大師様(弘法大師・空海)が真言宗を開かれてから壹千弐百年の勝縁の年であります。どういふことかと言いますと、京都に都が置かれた平安時代(平安遷都は七九四年)八二三年(弘仁十四年)時の天皇であられた嵯峨天皇が、空海和尚に国立の寺であった東寺を授け(勅給・勅賜)られたのであります。空海和尚は此の東寺を密教の根本道場と定め、真言宗を立教開宗したのであります。この立教開宗の年から数えて、壹千弐百年目に当たるのが五年後の二〇二三年であります。

この大法会に向けて東寺並び東寺真言宗では既に様々な事業並び催事を執行しておりますが、その一つとして来年二〇一九年三月二十六より六月二日まで、上野東京国立博物館(平成館)で、東寺講堂の立体曼荼羅二十一体のうち十五体を集結、その他彫刻、絵画、書籍、工芸など密教美術の最高峰が一堂に会します。講堂十五体のうち十一体が国宝であり勿論世界一美男の仏といわれる帝釈天も出品されます。四月十日と十七日には、青年僧による声明(しようみょう)公演も予定されております。お施餓鬼の時にご案内しました「写経」もこの千二百年記念の一環で始めたもので、来年あたりから本格的に皆様にご案内をしたいと思います。お

納骨堂のお勧め

一月に第三期増設

”

福田寺の納骨堂はお陰様をもちまして順調に多くの方々にご利用頂いております。第一期の夫婦用(二骨収容)三十二基と第二期に新設した家族用II型(四骨収容)十二基は全て埋まりましたので、第三期分として夫婦用十八基と家族用II型十六基を増設致しました。年明けの一月に設置されますが、すでに予約申込みされている方もおります。家族用II型は今回の増設分で終了となりますので、お知り合いの方でご利用を希望されている方がおられましたらお勧めしてあげて下さい。



生まれ生まれ生まれ生まれて生のはじめに暗く 死に死に死に死んで死のおわりに暗く

この言葉は私が住職としてご葬儀の時に「諷じゅ文」の中で読む詩文であります。典拠はお大師様の著作の一つ「秘蔵宝鑰」（ひぞうほうやく）の序文の一節です。本来は森羅万象の中に潜む真理に気づかず、三界を流転し続ける凡夫の愚かさを痛んだ詠嘆の句と見るべきであります。お大師様の生死観としてとらえても良いように思います。

私達のいのちは何処から生まれ、死んだ先は何処へ行くのだろうか。単純に考えるとその様な意味かと思えます。

私は今年七十歳になりました。同年代の団塊の世代の人の死に出会うことも度々となりました。少子高齢社会は必然的に訃報を耳にすることが日常的になっていきます。高齢者の方は自分の死と重ね合わせて訃報を聞いていることでしょうか。

私は物心ついた頃には死を考え、その後の人生において常に死というものを考えて生きてきました。その多くは、怖い恐ろしい存在の死でありました。

死を考え続け、悩み、一時期強迫観念に陥ったこともありました。しかし反面、「死は常に生の隣り合わせにある」と言うことを実感として捉えることも出来ました。やがて死の恐怖からどうやって脱却出来るのか、どうしたら克服出来るのか、自分なりに少しづつ少しづつ体得できるようになった気がします。

仏教はお釈迦様が、人間の一番の苦しみは「死」であるというところから出発し苦しみの原因は執着にあり、執着からの解放が悟りの道であると説かれています。

お大師様は二十代前半の著作「三教指帰」の中で、人生の無常観をとことん述べています。人が死に行く姿を赤裸々に描いています。お大師様も死というものに常に背負っていたのではないのでしょうか。だからこそ、密教の「生きる」ことを賛嘆する教えに傾倒して行つたのだと思います。

冒頭の詩文は「生きる」ということ

は何なのか。「死ぬ」ということは何なのか。生死を追求し見つめたお大師様が、生死の執着を脱却して生死にとらわれない心境の中から、ほとぼした真実の言葉に思えてなりません。

死の執着を克服したお大師様は、自分が感応した「いのち」というものがどういうものなのかを、様々な手段を通じて発信しています。お大師様の「いのち」は個々のいのちと捉えるのではなく、大きな一つの「いのち」から全ての個々のいのちが生じていると捉えているのです。この大きな一つの「いのち」は過去も未来も超越したもので、いわばこの世に存在するすべてのいのちを生み出すもので、私のいのちもこの大きないのちから生じているのです。生も死もこの大きないのちの中の現象でありますから生まれることも死ぬこともみな同じいのちから生まれ同じいのちに戻っていくのです。いのちのつながりとは過去から未来へのつながりもありますが今生きている全てのいのちもつながっているのです。ただ、このことを自分が体感でき、心身ともに信じられるか否かのように思えるのです。



護摩供養会

二月八日午後三時より修業

 (申込み受付中)

恒例の新年厄除け護摩を二月八日の午後三時より修行致します。護摩を焚く修行は近年いろいろな所でされていきますが、正統に受け継がれているのは密教寺院であります。福田寺は、京都・東寺を本山とする真言密教の寺で、創建以来八百八十年の歴史を刻んで参りました。

檀家以外の方でも勿論結構ですので、皆様お揃いで新年の護摩供養にお参り下さい。



期日・・・二月八日、午後三時より

祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄除け)、
身体健全、病魔退散、家内安全、
交通安全、商売繁盛、業運繁栄、
学業成就、合格祈願、安産祈願、
子授け祈願、その他

申込み・・・一月末日まで、電話可

電話 0465(36) 2755
FAX 0465(37) 6688

平成三十一年 厄年



男性 (大厄)

前厄 昭和五十四年生まれ

本厄 昭和五十三年生まれ

後厄 昭和五十二年生まれ

(厄) 平成七年、

昭和三十四年生まれ

女性 (大厄)

前厄 昭和六十三年生まれ

本厄 昭和六十二年生まれ

後厄 昭和六十一年生まれ

(厄) 平成十三年、

昭和五十八年生まれ

仏教相談

誰でも気軽にどうぞ

勿論檀家さん以外の方でも
仏事に関して、
どうしたらよいのか？
どんな些細なことでも
ご相談下さい。勿論無料。

電話0465(36)2755

福田寺

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より1時まで、住職により

新年のご祈祷が修法されます。

ご自由に参拝ください。

暮れのお参り



古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。

特に大きなものや、燃えないものは連絡ください。

年回のお知らせ

来年度の年忌(年回)法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要の日取りを早めに連絡して下さい。

◆お願い◆

境内で車によるトラブルが発生してまいりますので「車止め」内は配送車以外進入しないようお願い致します。